

慶長年録

十六年
十七年
十八年
五



慶長公事記抄云ト申ス者アリ
今ク此書ノ後サテトシテ一因テ
除キ事ヲ此云ノ故ニ

十三本ノ慶長日記トハ全ク同書ナリ
但シ慶長十六年一冊ニ就テ推シテ大御堂
猶ホ細書ナリ
日記ハ五年ノ上ニ誤字ナリ
其此書ノ方少ク多シク誤記ハ誤

慶長元年記大同ナリ但シ此云ニ比テハ
輕ニ詳ナリ
年記ハ後出ノ似ナリ

内閣文庫			
一六三函	三七八	和	
一七六	六八	書	
架	冊	號	類

内閣文庫			
番號	和	30785	
冊數		6 (3)	
函號		163	182



朔日
於江及駿府
諸出仕如例
江府及駿府
内中礼酒井
宮内左衛門
家次



慶長十六年

正月二日江戸於涉城中儒初巾庭配

左

松平安房守

松平甲斐守

松平外記

本多伊勢守



右

宍上駿河守

小笠原兵部少輔

淺野彈正

西今出將守

牧野駿河守

一 於駿府出仕如例自江戸以酒井左衛門尉越中

礼有

山月五日
若狭對馬の重
信の事
道々
佐々木
大番
能る
別

一 正月廿日江戸湯城巾具より中経巾連歌

一 若くより雲井よりや庭の松 孤く

去の棚戸をのむくころ 秀忠公

一 去三日蒲生飛彈寺家大寺門ハ沙池田

二 乃出の家類大 飛彈寺ハ二日一序園留之也四冬所成ハ付飛
取也新發之在飛取也門ハ所成門ヲ多ク

一 七日大市不棟田中ハ湯野野ニ出九日

一 榛系那湯野野中永ハ出

一 十日湯油ハ町大寺

一 昌歌會ハ連歌

くふく叩百よりこのの鳥れく急 昌歌

若木の梅の咲くむら庭 玄伸

一 雪降き山梅戸ハ去より

一 二月九日猶西一夏於駿府ニ死去是南代々及

く族抱く名人也武常ハ俄魯安ハて細川

一 肉記父子疎くうまひハくも族抱名人ハ

一 大市不隠ハて湯れんハ人ハ成

一 三月六日江戸湯城巾普清初 ハ馬中ハ湯城
ハハ家出

一 同日大市不棟田中上湯駿府ニ出

一 同十七日巾入洛

一 丹波國ハ代官檀田小ニ市野瀬ハ山波ハ事

引

一 貞成改易作付中代官不勘定は作付

貞あり令七百枚被弁上

一 二月十九日徳永左馬助宗一宿禰亡

一同廿日右左衛門督及常陸介及宰相中補任

水戸殿中將中補任

一同廿二日大市不極中不令と商家一市迄祖新田

義重贈官あり 徳守府將軍

廣忠公贈官 權大納言

一 廿二日本多豊後守廣重死去十一日より 風

毒腫生おぬれぬ

一同廿七日親王一市讓位

一 廿八日大坂秀頼公市上洛織田有乐市相市心

同主膳大野源理多市番政元小姓元二十人

斗中供

一 右左衛門督及常陸介及上馬相連市連市出成

右左衛門督及中供一淺野紀保市常陸介及中供

加茂肥後市也相果三市出市廣堂和泉市斗中連

出秀頼公竹田通 京都一市出市相市心所連

市番市心成市市心不市肩衣袴市為市二市

市所市市入市成市中進相一市盛一市市力炎

一巾一鼓目。大市不換巾。孟秀額。系其时大左
文字。巾腰。右隅通。巾服指。其分。市
鬻二居。大鬻巾馬十丈。巾進上。巾孟秀額。云
大市不換。系其时秀額。云。一文字。巾
腰。右左文字。巾服指。巾進上。高基院。及
巾出。市對面。巾相伴。五人。奏者。林。不。候。豆。也
永升右道。西尾丹後。城和泉。

永井右通

西尾丹後

城和泉

恨子百投

上野分

大久保

石見書

木

倅賀也

恨子所教

安海

吊刀

村城

茂叔

成源

隼人

子

清右丞

退子亦收

如申
おあぢや辰
おうめ辰

お
う
ん

一人一子

惠女中三百投

右兵部督度

光忠

金百枚

常陸介殿

一文字

全百校

秀瓚云別涉改本通也亦見大佛中見初大工
大和寺。銀三百枚。天下學國。一社系銀子三

百枚巾寄進
其日大坂へ申下向

亦八日

秀賴上洛之時、中仙法過、中多上其分、江戸中上を其の左、中上を
而讓任一時亦七日、中仙法、禁裏探中機、能く成中を以て、中上を
大市、探中仙法、能く成中を以て、中上を

秀頼様時亦八日大市不極に申れは後上いそ極子に申事

秀頼様申候に織田より桑戸桐市に因主殿大野修理より外申書既元申

右兵衛督及常陸介及上高郡連申達に申出され右兵衛督及申候清野

紀伊守常陸介及申候に加夜肥清守に致しに介相共三左共右堂におき

二条に市不極に大市不極に申れは後上いそ極子に申事

秀頼様申候に織田より桑戸桐市に因主殿大野修理より外申書既元申

右兵衛督及常陸介及上高郡連申達に申出され右兵衛督及申候清野

紀伊守常陸介及申候に加夜肥清守に致しに介相共三左共右堂におき

二条に市不極に大市不極に申れは後上いそ極子に申事

秀頼様申候に織田より桑戸桐市に因主殿大野修理より外申書既元申

右兵衛督及常陸介及上高郡連申達に申出され右兵衛督及申候清野

紀伊守常陸介及申候に加夜肥清守に致しに介相共三左共右堂におき

二条に市不極に大市不極に申れは後上いそ極子に申事

秀頼様申候に織田より桑戸桐市に因主殿大野修理より外申書既元申

右兵衛督及常陸介及上高郡連申達に申出され右兵衛督及申候清野

紀伊守常陸介及申候に加夜肥清守に致しに介相共三左共右堂におき

二条に市不極に大市不極に申れは後上いそ極子に申事

秀頼様申候に織田より桑戸桐市に因主殿大野修理より外申書既元申

右兵衛督及常陸介及上高郡連申達に申出され右兵衛督及申候清野

紀伊守常陸介及申候に加夜肥清守に致しに介相共三左共右堂におき

二条に市不極に大市不極に申れは後上いそ極子に申事

秀頼様申候に織田より桑戸桐市に因主殿大野修理より外申書既元申

右兵衛督及常陸介及上高郡連申達に申出され右兵衛督及申候清野

紀伊守常陸介及申候に加夜肥清守に致しに介相共三左共右堂におき

二条に市不極に大市不極に申れは後上いそ極子に申事

秀頼

一 市太刀 国宗 銀二百枚 右兵衛督

一 市太刀 同前 銀二百枚 常陸介

一 銀百枚 綿二百把 紅二百斤 濱坂 女入

一 同前 紅糸 進

一 銀百枚 綿二百把 紅二百斤 姫君 女入

一 同前 紅糸 進

一 右兵衛督 秀頼公より 市太刀

一 市腰相 言え 市刀 言え 信子百卷 湯小神 市腰織

一 市太刀 二字 市腰相 松浦 信子百卷

一 市太刀 二字 市腰相 松浦 信子百卷

一 二、子ノ小敷トウ皮トモ 銀ト腰袋米

一 市太刀 二字 市腰相 松浦 信子百卷

一 猿樂十八人 小神 同 同明 小神

一 市太刀 二字 市腰相 松浦 信子百卷

一 卯月 市太刀 市腰相 松浦 信子百卷

一 同六日 浅野 彈正 死去 下野 園地 市太刀 湯治

一 同二日 市太刀 市腰相 松浦 信子百卷

一 同十一日 市太刀 市腰相 松浦 信子百卷

一 同十二日 市太刀 市腰相 松浦 信子百卷

一 市太刀 市腰相 松浦 信子百卷

一十七日家康公智恵院へ御系詣

一十八日 系^せ出^で系^け出^で 十九日 彦根^{ひこね}出^で

十日而海柏京進出廿一日收車至廣鵲洞
中見柏少一及不出來小一也銘一也不出廿二日

加納ノ市威名古久遠
由出廿二日名古久遠
由之

葵田
ふり
船
ふり
水
下
き
日
東
風
吹
野
間

巾衣をよせしむるを悲しむる也

月も風吹ぬ船をちと船へす片白の川國

むろく水より俄事あるは不又人馬不自由なる

一、如虎背國進步仍舊一市供航船之碎

山崎も大町系并右兵衛督及常陸介及八木坪

不彖成以同廿八日驩府一學市

一 江戸市普請室中、常々日用の教多あり

古氏百姓殘乞
永滿足中

一 六月朔日尾列名古卷之中晉清三封貞潔阮

倭勢元卜看千石丈と申す

一禁中書晉清對策地一畝八尺之間限子

二 費五百圓を以てつとめ 園東尻ハ根子ネコを指上

侯爵公、中工、大和方、清永系、町人、海

了勢中定外法

一 去年より思ふに、京田舎近、系、山有、

法雲院、佩帶、松庭、世伯、大居士

一 六月十七日、堀尾、常、刀、死、去、一、所、銅、より、く、く、く、人

仕、悔、心、也、計

清心

一 同、市、比、日、加、友、主、斗、政、於、國、死、去、年、五、十

一 北、國、前、田、肥、前、主、去、より、お、城、々、散、々、

一 福、清、お、患、の、主、去、より、お、城、好、今、不、定、同、好

生、中、繼、同、市、来、不、定、にて、是、男、駿、府、

卜、向、後、江、戸、も、卜、向

一 七月二日、江、戸、井、保、主、那、屋、火、事、出、来、排、系

遠、江、ち、家、類、火

一 同、八、日、養、濃、國、高、果、主、任、他、永、石、見、入、道、死、去

一 去、三、年、以、前、主、腰、板、不、可、歩、造、主、金、子

九、百、枚、有、

一 同、十、日、江、戸、中、普、清、出、来

九日

同、亮、初、志、願、後、林、記

一 八、月、市、比、日、加、友、主、斗、政、子、是、文、主、任、他、平、願、小、沢

一 漸、々、情、年、礼、々、在、主、の、あ、人、為、中、目、付、肥、後、卜、向

一 清、野、紀、保、主、又、彈、正、葬、礼、於、高、野、山、養、繁、主、吊

有、

一 卜、野、常、清、主、國、主、盜、人、大、勢、輝、記、て、市、夜、市

仕、又、主、同、主、後、地、にて、孫、人、を、市、前、荷、物、と

五中事致不知江戸より足將既元細井金多情
久永源多情腹中三人。足行月山同同公在
連糸とて能く被穿鑿盗人九十二人捕了て
成敗仕小山く竿柄新田く中不九十二人首を
うけし札とて死由

一九月大

五日江戸云方林巾島女十二才出市被前少約取巾

於喝食

中納言忠直

縁邊満月亦八日於被園巾被云て中

一十一日姫若駿府巾忌

古井大姫殿御也山城守也
長谷川龍溪守り府

一十五日お駿府姫若巾地乞く巾被る人

一十六日姫若駿河巾立てり巾被る人
成りて十八日追巾也引巾本後成巾之
一十月六日大市市被駿府より市卜向七日今泉云
長徳寺八日三馬巾忌九日小田原巾忌大久保市列
新出加賀巾忌市忌十日中京市忌野
一十月十日大久保加賀巾於小田原死去三十三春中より
お被りけけに云及く巾出取人控辨言りゆ
天性多うく和にて恩恵と云うひ
愁歎悲感いふ人最後と不知曉て其
支記方乃方しりも予小田原地り人

治部大輔と申家老と令升新田出つと申事
太平記の時方より近代迄は此家より
れ義貞の子孫と申と知悉く申とて
文書系系よりされりけり未だ近代
天文より武列より横瀬雅忠初より若宰人
よりあり彼家仕へ忠功とほく後には家
老と指きて軍代とほく二代お續くと
大名に成後ふる家中侍と申付いて終
より新田治部大輔と進出り新田城を
由良国繁と改めしとて代り子孫新田城

主にて天正十一年迄新田に在城と初
岩松治部大輔尚純入道類聚歌人永
此書より歌書より書あり書あり
とてと意増書より書あり月毎今度
大所不極懸巾目也又由良國繁も本
名横瀬より武列より小野氏也小野國繁
自筆に書山經冊二枚寒松求テ今度進上
る右より岩松久茂新田に在るに付所
者も新田及よりそ月もありて
義貞より子孫より好先年より月毎に書

時駿府へ系中へてりし其の傳へ系系
云々永く比より中興へ祖天用入道と
治部少輔宗純を次明純六七代斗書法け
一卷指上る月毎を古河へ書し古文
書其の合中せんくし其の孫義貞く未
公中存りて岩松治ア大輔勲る中存りて
助不存成てむるく上列世良田へ
其の重代く古く系中存り同居候へ
指上る存り次の新田此より由良も今
新田と
中

一同月某回七九帝中預へる力同公と云事
仕七九く北道有く其の由良易く存り下野
是利に就居仕へる事仕へる力人
甲列く定番元は加是ハ元来甲列案内
好知の如也残りる力歩同公ハ古波山城
中預へ成松平小作加茂同久永ホ也是古波
山城より中預へ成七九元と中葉同く
公事仕へる人ハ水原周通花村忠孝内川
七九出山田六右衛門内田小吉是ホ甲列
定番と云は是も七九元と中

- 一 亦比日七井大炊頭自江戸中使書駿府中納言
一 事親
- 一 亦在大將家以後代々云方々法式之守作
被考換益而恒江戸中使出湯目録去跡
て守る旨事
- 一 或省湯法度或遠上意々事各國々て停止
隠立事
- 一 名相拘々諸侍以下凍致教害々軍兵て停
止相拘事
- 一 右若於遠省々事々々遠中凡明て事安敵

科者也

慶長拾六年四月日

國持大名元連判通

國不持元連判通

在江戸東國元通

計万石より高々元摺紙有

十二月二日秀頼公宰相及中宛癰中本腹
中秘儀駿府中使使者有拒依新在患下白
是之來河内守代々侍也々々々

右慶長年録自六年至十六年
以酒井雅樂頭藏本授合有異
同者朱書以補闕云
文化元年四月日

慶長十七年

正月二日江戸市街城中霜初夜入雪二三寸

右土中子以霜上破河也

小島京伝漢也

松平介記

牧野破河也

右松平安房也

松平丹波也

西今出好也

一 比二番目々若君中鹿瘡成但恒

一 比日平若斗名渡倉二の丸る死云

大市市々々々病中大山へ移りてて東

概は有馬修理より大無あり唐弘く系すの
 又其を以て長谷川に之を請ふ有馬修理や其
 之に中我亦お漢中不分明也と申して死す
 有馬修理も困人より大久保石見に其作舟甲
 列へ其を中穿鑿してあり也初め子左衛門
 一廿五日駿府中城より出陣す小進法平今春
 常陸へ及も其成り又下子の遠山氏於此
 久右衛門池田備後一番宛其作舟大所不様大
 笑其成り終末は河あひの上りきり無窮一海を山とくハ小町
 池田ハ子壽いつれも一と物也免すて不を却り
 一廿六日投陣中より系入秀忠云へ其進

一廿七日大所不様へ申系し湯へ會あり秀忠
 一廿八日入
 一廿九日加茂主斗願子急大所不様へ出仕令取
 巻お二十むくの拾十云方様へ之江戸へ
 出仕す中其終付
 一廿日大所不様將軍様申あ人申討面致別余
 人申通不し不系
 一十日秀忠云駿府申立
 一十一日今日氏主自系し向駿府市前へ系昔
 申お済す

- 一 廿日吉田城主松平玄蕃死去玄判氣方惣受
- 一 中出子判死去又後受し又於死
- 一 四月七波山城も大番改作
- 一 五月廿日江戸龍の口上総介及居形初事斗し
- 一 焼亡
- 一 有馬修理亮玄年十二月より中頭成甲列
- 一 於前那_ニ存_ニて及生害_ニ由_ニ中_ニ之_ニ服_ニあり_ニ中_ニけ
- 一 不計五月七日終_ニ切_ニ腹_ニ也 是長門をて教用也
- 一 六月十二日倉津_ニ蒲生飛騨も死可也大酒
- 一 乞_ニ好_ニ近_ニ年_ニ諸_ニ事_ニ依_ニ法_ニ急_ニ發_ニ之_ニ行_ニ儀_ニ也_ニ小_ニ性

中山之服是依右邊の主人追腹切 六月十五日、大市、板野、諸、
お、便、之、由、業、は、ト、未、知、果

- 一 六月朔日古井大煩家焼亡不及他下
- 一 六月六日加茂肥後も上_ニ城_ニ尾_ニ山_ニ城_ニも_ニ古_ニ也_ニ在_ニ江
- 一 戸仕_ニ以_ニ机_ニ今日_ニ中_ニ振_ニ也_ニ下_ニ中_ニ順_ニも_ニ終_ニ出_ニ八_ニ日_ニ江_ニ先_ニ
- 一 了_ニ終_ニ出_ニ中_ニも_ニ終_ニ後 六月廿七日肥後もあつた_ニ
は、終、了、之、事、は、ト、未、知、果
- 一 笠岡二三年之城代_ニ有_ニ松_ニ平_ニ丹_ニ波_ニも_ニ移_ニり_ニ可
- 一 中_ニ由_ニも_ニ終_ニ射_ニ小_ニ笠_ニ京_ニも_ニ出_ニも_ニ依_ニ古_ニ河_ニ移_ニ今_ニ追_ニ中_ニ在
- 一 一万石_ニ下_ニ机_ニ一万石_ニ中_ニ加_ニ増_ニも_ニ古_ニ河_ニ
- 一 系_ニ丹_ニ波_ニも_ニ一_ニ万_ニ石_ニ中_ニ加_ニ増_ニも_ニ笠_ニ岡_ニ系_ニ
- 一 大_ニ島_ニ井_ニ邊_ニ之_ニ場_ニと_ニ中_ニも_ニさ_ニき_ニ志_ニあり_ニて_ニめ_ニと_ニる

是ハ二三年以來に戸中ニ若クハ并ひち
と接りて近皆一味同くして逸々傍組と
一同の如ひとあり。又血判に記清文と書
そ敬ハけ組中何れも有るも又
命をすて思つて中いたとひ親類又
ふも只ひく足方より新由受て
大將の方ハ大風嵐物天狗摩右衛門風吹散
右衛門ト組内ハ大橋摺右衛門ト中者江平
元満してあつて切不絶破喧嘩及致意
同由法交は作付ト右極者有るも

石捕判罷ては作付由は作出交に果山孫他
と中者ゝ家来右組と小郎也孫他中
大に驚き脇より判人云く中々成敗可
能くは昨日様方出の家来者二人が付金銀
を呼出し手付にて仕と用意の如く跡
皆破者ゝ組に成るふも。まゝと中合
摺紙を書きこれハ家来者合してまゝ様方
光切欠落仕の如きより新由法交つ
くあり方々海原に因てまゝと中合
中穿鑿有六月と未と神田に所々夜あり

又月夜に坐して通る者ありと思儀と
 中て町よりとて引来る見れは彼を
 を教へて老也別高を尋く道具を寄
 せんくく一味と悪黨と名を書くる帳
 ありそ教む百人余也大將く大馬并逸多情
 心也尋く宿ハハ五子有別正捕に走
 少也高情と云ふく不^初勘堂相撲見物に
 同別大久保石見内ハ五子く可なり内友
 平次と云ふ者高情ハ仍染りて正捕
 平次と云ふ大力者逸多情もお撲く達者たけい

よとり合上下へ返す大勢より縄をうけ
ひて江戸門より参り青山権左助所へ至
る。ゆせん。水大く煮ふ。乃ふ。う。た
同類。一人も自然なり。

一 け逸き場いえ来中多百物り小者る勸中
とゆていゝつゝある輝也去れ度長く初秀
忠公市上落く市付百分中依り系り付伏見る
小者る每晚市殿く近下く過る草履く
法光ひゝるるく清和後くと和智古いゝる
あまりふとろ西^める後く市法交り成てそ

同少と申付りて逸々清大といふ侍る
との小おねのうらもんの前代未史也なる
罪科のありき者成も官人の戸の平七
の上より並と史也是ふより官人ハ
ちの号を侍ハ又侍法にてくもん
の化法ありおとねを知らぬるを
同類ありハその方より是勘十帝我ハ
同類也勘十帝も尿水とくれくと
申ケ後因にま史人ありけ逸々清大
ものまありすと留古を老七月七日野

監物む破河一けと上

一そ後逸々清ハ江戸中に後ハとておと
同類皆成敗三百人申切け月を祇に死
もあり是ハ五月け同類は喧嘩い
相果中の者あり是け組中ハ宰人也統同
同類ふありすとて知人とあ合とて代お
とてとて寺ハ送り吊ひ佛事い
そ後寺より出とるを後代おとて
者ハ罪あるとてきられ中の後日、あ
なりあるとてあやまりとて人の中

一七月廿四日近江へ長湊へ舟在り内取豊前

死七十才

一同亦八日大久保石見寺俄々大中风を被り

一九月十三日池田三左衛門一昨日駿河へ忍令日出

仕同日黒谷大寺より法統上人像を焼失

一十五日駿府池田三左衛門少振旦

一同十六日池田江戸へ下倉津蒲生飛澤より急

下野より下駿河へ為出仕より五日逗留中より

一十月十六日福清左衛門兼出仕その後為出仕

江戸へ下向より

一江戸より今度迄々米同類へ成り方々工中然るに

米津勘十郎勘十郎子 忌部友次奥列

井上左平次半九郎兄 保坂長次郎金右衛門

坂部金次誠後掌

一誠前國三河守殿中務事より云事起り彼

國大に動國す是ハ久世但る事より者々忌部

自休より者々知りより百姓云事より事

起り中より

右より中務中ハ先々中納言秋天下り云双より教

事より國東西國へ武田名より者様より中務殿

戦前にも諸國に勝て能く武士教多由能く
討つ家の中氣持高しとして威勢を争ひ
中の中納言松田他界に後々少將及中
若年にもけり家中何れも中分仕大坂元
心ある合ひり大事も思ふに慶長十二年
より戦前と大坂に同様に長湊・越中
子と中元立内友にたき城より作付給ふ
國中に松田中分出来り大坂本松田更
不浅と有感の

一 国十月二日大坂本松田府より江戸へ中下向

去月亦に日に出ては松田中腹物氣散中なり
今日大雨故に尻道中下道中中野野に成
十二日に中下向

一 戦前にも事々起りハ其比依渡國金山繁
昌して京江戸も無事無難に松田見相
松如等元満す國にも来る金けり町人
等が松田松田ふけりてをきひて悉
くつれ國本へゆきある者数々不承身持
よくよくゆきハ十人一人也松田依渡
系り者二年に約束仕三年迄にハ家早

皆死中にありては死に絶え我亦久世但るも百姓
休後にあらひしは海に妻は忠節自休し中
に百姓にむすめ也妻を三年する男を産て
後三年過りしは何方にもつけしと世
約束仕渡中に居三年待たば不序家早舞し
何方にも流宰仕り又ハ死中にありては三年に月
日右に女に別し舞を死中に死に次し日彼舞
死中にありて道にて相対還留し中中にありて日
限約束しは得るも事しも不存成は死に男小
服有しと中舞しひし中死に男を何者やん

園中仕の野に小舞を農人見中にありて切中
り者久世但るも是舞し家の中へつけ入中中
を自に見中にありて同くしとありし舞の不
しと諸人中にありて舞し久世但るも是舞
し中中にありて同く必死舞し不存しと百姓にあり
死に見中にありて舞し入て舞し不存しと死に
後にもありて死するのやしと不存成る中に
死同く忠節百姓に地頭へあけさ中にありて
是より忠節年あはしとありしと河を度中
幼少より一室ある海に中中にありて中にもあ

戸の中上り人故多換て中々諸人の中に二
河ち取寄るれりゆふ事江戸へ中々及る
りるより呼出に討てて作付の中より依和
山の是れと呼出に叔父世但る方へ右に
百姓殺しに者出にゆふ事作付に人あり
作付討て中の中より作付に久世は右様と別
し中沙汰をとりて右に百姓殺しに中
者と内より切てゆふ事すて只一處あり
中の中より作付に海運のきりめと中の中より
思ひて江戸へより中の中より牧野と及物も是れと

同道にゆふ事ゆふ事江戸へは右様と
て中野山へ上りてゆふ事林者あり今村と
久世世中田と中田とてゆふ事ゆふ事
ゆふ事久世世中田と中田とてゆふ事ゆふ事
ゆふ事素殺しに中の中より大將と
中田作付と作付に右に中田と作付と
ゆふ事一處と殺しに中の中より中田作付と日比
久世但る一味あり風とゆふ事ゆふ事人質
とゆふ事人質と作付に府中と城と中田の
中田とゆふ事則作付とゆふ事ゆふ事久世方へ

有^レ科^レ糸^レ任^レ裁^レは^レ候^レ豆^レ中^レ惣^レ安^レ
危^レ定^レる^レ但^レる^レ方^レる^レ中^レ使^レと^レお^レ死^レて^レり^レい^レく^レ推^レ尋^レ
仕^レ候^レ豆^レと^レ中^レ使^レよ^レと^レり^レう^レて^レ也^レけ^レや^レ案^レ久^レ世^レ但^レる^レ
家^レ中^レ者^レ候^レ豆^レと^レ切^レて^レり^レと^レ死^レ卷^レの^レた^レ但^レる^レ
款^レの^レ心^レと^レす^レい^レて^レ候^レ豆^レは^レ我^レホ^レ一^レ味^レ成^レ必^レ不^レて^レお^レ
果^レて^レぬ^レ中^レ候^レ豆^レゆ^レり^レて^レは^レ方^レより^レ死^レ卷^レ
夷^レ中^レの^レ落^レ枕^レせ^レり^レ合^レ候^レ豆^レ内^レ廿^レ七^レ八^レ人^レ討^レ死^レ多^レ歟
皆^レお^レ死^レ家^レ中^レ七^レ八^レ人^レ討^レ死^レ高^レ天^レ神^レ死^レ高^レ次^レ
武^レ主^レと^レり^レ者^レ候^レ一^レ番^レよ^レの^レり^レて^レは^レ内^レより^レ逃^レに^レ
て^レ突^レて^レ前^レを^レも^レ子^レと^レ一^レ回^レつ^レて^レの^レり^レ中^レ内^レ。

つく^レ組^レと^レす^レ一^レし^レつ^レさ^レ合^レて^レ付^レ大^レ勢^レ堀^レの^レり^レ内^レ
押^レ迫^レ玄^レ園^レと^レ前^レる^レ急^レ我^レひ^レ中^レ候^レ豆^レ組^レと^レす^レ
は^レ大^レ石^レに^レ帝^レお^レ出^レと^レり^レ小^レ田^レ京^レ死^レ仕^レの^レ中^レ十^レ月^レ十^レ九^レ日^レ
前^レ日^レより^レ死^レ卷^レの^レ堀^レを^レ家^レ中^レ女^レを^レ介^レ前^レ十八^レ日^レ曉^レ
皆^レ前^レ沙^レの^レ方^レ久^レ世^レと^レ百^レ五^レ十^レ二^レ人^レ討^レ死^レ家^レ大^レを^レ
う^レけ^レや^レけ^レ立^レ中^レ堀^レの^レ中^レ又^レ自^レ害^レ中^レの^レり^レ内^レ
一^レ回^レ目^レより^レ本^レお^レ出^レと^レり^レ法^レ名^レ方^レと^レ書^レ本^レ方^レ女^レ永^レ井^レ若^レ生^レの^レ
中^レ使^レる^レと^レ死^レ卷^レの^レ女^レ安^レ中^レ使^レと^レ向^レて^レり^レハ^レ定^レて^レ我^レホ^レも
今^レ日^レと^レ作^レ付^レの^レあ^レ人^レの^レそ^レ中^レ使^レと^レ思^レわ^レり^レの^レり^レ内^レ
前^レの^レり^レ内^レ一^レつ^レ書^レを^レ指^レ上^レ中^レの^レり^レ定^レる^レお^レ果^レり^レて

後正路、由今味、今度、我、お、手
を、死、後、其、ひ、鼎、科、ふ、せ、て、か、る、の、と、を、ひ、見、せ、ん、と、中、内、入、る、漢
地、を、お、け、一、家、来、切、て、出、方、我、あ、人、
同、心、成、人、は、と、討、死、女、安、切、腹、人、同、日、上、田、集、
も、切、腹、人、

一 十月十八日大市不秋西ノ丸より本丸へ出市

一 我、前、二、事、上、田、本、田、伊、豆、竹、崎、岡、防、村、
掃、部、志、水、丹、後、林、伊、賀、江、右、衛、門、戸、下、る、

一 十月十六日川我

源、津、河、左、衛、門、
野、呂、理、右、衛、門、
松、浦、公、常、

鎌倉殿

版、田、右、衛、門、
伊、豆、左、衛、門、
石、丸、六、右、衛、門、

一 我、ヶ、谷

大、沢、忠、三、郎、

小令

尾、崎、助、左、衛、門、

浦和

小、山、左、衛、門、

鶴葉

中、川、左、衛、門、

聖崎西

大、河、内、左、衛、門、

比方中野場

一 河、次、造、り、橋、け、来、り、少、立、り、中、野、場、我、

一 同、日、将、軍、家、戸、回、り、中、野、野、亦、日、河、我、

一 中、野、野、亦、日、河、我、

一 大、市、不、秋、東、方、中、野、野、

一 十、一、月、十、二、日、吾、田、城、松、平、主、殿、預、り、下、玄、蕃、

一 次、り、上、玄、蕃、次、郎、西、郡、高、木、子、石、下、足、玄、蕃、

一 子、あ、く、一、と、死、仕、又、後、隠、居、仕、山、本、河、内、氏、

一 隠、居、次、子、石、下、中、野、中、上、山、本、河、内、氏、後、も、お、果、

内記も相果内記。幼少よりあり是次男
筋に中流の旨記目も何れで中流家来より
中流の旨内記中流家来印戸に中奉云
中流の旨是。お子石中内記将に中流家
を援助て中流家何れ是。松平紀伊守介孫
にて養ひ物と中流云蓄より中流を

一十一月廿六日晴 大市町振長寺湯田中

一廿七日晴 湯田中城我前尻射火 市又子振長寺
石

一同廿八日晴 將軍換り中流後今村掃部志水丹後

^{十七年十一月廿七日改易}

林伊賀負成本回伊豆中勝成我前尻

十八日又中川出雲廣次玄彦林伊賀配流

志丹後ハ仙臺ハ配流政宗エ中流掃部ハ岩城ハ配

流多居左京エ中流林伊賀ハ玄回伊豆エ中流竹馬

岡防ハ射火ハ後自害仕り相果

一我前ハ本回丹下中流是九是ハ城ハ作付二万

石中加増多中多飛彈中中流 丁時中流

一十二月二日晴 大市町振印戸中出岡十五日駿府

還市

一 同日佐濃丸保科肥後守仙石玄就備因幡
玄田伴重亦作舟候奈々找亦出可中
由所任也為中使五味令右患と云候所

一 十二月十二日禁中仙洞寺普清初次寺南方
玄不築地ノ清丸ハ伴建政宗本多義濃守宮上
出羽守柳宗遠江守里見安房守奥平大膳守
松平按津守南越後守依竹右京左衛門守
松平飛騨守加友肥後守淺野紀伊守羽繁左衛門守
并候玄就少羽某右近因就中守
西方築地ハ羽繁之左患ハ就亦少將及生駒源次守

寺沢志摩守松平飛前守

北方ハ但是ハ後出來入大坂秀頼公ノ右患玄就曾及
中丁場也院ノ中不々中築地東の方就亦少將
及是田飛前守堀清佐濃守松平長門守堀尾
山城守松平七郎守加友左馬助兼極若狭守羽某
丹波守友堂和泉守蟠次賀河波守西園信俊守
有る言書改書居左京丸田中飛後亦也
一 十二月十五日大所下候自園東還市

就出羽守遠江守由上玄就河守及玄就也中

十九年

一 倭之船去 吾相遠者 三月廿日 相如前 以式て 舟中 舟致 對駿河也 舟下 中月 去 糸 跡 等 地 甚 急 也 也

二月 六日

大炊助

雅樂頭

依後也

官上

家老中

慶長十八年

一 正月朔日 大風吹 秀頼 使者 為 市 札 駿府

大野 之 馬 來 但 駿河 一 速 水 甲 變 大野

江戸 へ 強

一 二日 大風吹 江戸 中 濱 初 霜 降

左 哉 後 少 將 及 西 今 出 陣 也

一 八日 松平 丹波 也

右 官上 駿河 也

小笠原 之 繁 補

松平 介 記

牧野 駿河 也

一 五日駿河より大所不山郷野に出城ありて少
て出陣は侍所等より出

一 七日田中へ中郷野に出

一 八日駿河戸山に但馬守改易は侍所是ハ駿河
日向も娘を但るき子息は嫁け娘は又石川好生
の時分押籠居るに其に娘は中免許等中
縁通曲事より中へ侍所

一 同九日方中見上候は政宗駿府へ参りて

一 同十日大久保相模より目安を中より石川山に
出動あり中よりけ仕是ハ彼石川長門も孫女ハ

お別れと申す孫也是より右へ脱去し候物
あり中より申すは但る中よりけしきとて
將軍家より申す上あり

一 十日駿府より令左後殿に帝方へ古田織部
使者より候あり其書中、借令教多借中、又
申すは別要細相改め候も盗人にて謀害也
別事ありて浪進中より所事より表坂九を傍
同知とて一榻ありてお宿居りし者助来
切合中より九を傍同知七人より負高方三人死
盗人并助中より者より負りて石捕りては相果す

山右へ極子達上聞りて右へ宿へ某田左近
組へ申歩りて氣を成也彼宿中成敗某田
左近申改易

一 北園肥前守様より介へ申渡りて申而送物上肩付
金五百枚^{は代五百枚} 金五百枚^{れアリ} 申渡りて人へ若君へ金五十枚宛
將軍家へ新刃友に帝へ願指一文字より支
若君へ金五十枚宛上

一 十五日江戸より大久保お列今日へ申れふ所出
是ハ右山に候へ申目安し申申上ふ所下り
申候ふ所好増候と稱きて就居より是處人へ翌日

より出仕加賀守様相果の後歎きのあまり經
氣を成お毎々幽情極く候へ申候ふ所多休後より
今日比申ふ能り申候事合へ時何事うて致さ
と一様申ふ所候

一 廿六日申へ列池田へ左申の於國死を五十枚所日
辰ノ刻より中風仕仕血死是れ申自江戸去
大炊頭より申渡りて申へ
一 備列へ山忌ふ帝代より申渡りて

一 廿六日江戸より申へ申るを死を是ハ將軍家申切少
し時分より申へ抱り申へ也河村君次郎也

時より方々人々諸人惜し

二月朔日去年冬より鎌王より進上り大駕

十一将九易へ系え

一有る御理於甲列那内切服を作す

二月二日大坂へ大車あり二ノ丸へ長尾少将

二月廿日青山情磨死將軍家田若年より

寺附に也中家老より出り中を年ハ巾あき死成り

二月朔日小出情磨大坂へ死

二月二日上総公及駿府へ中戦

一坂河尉馬より目安より中へ西田信濃より戦

子細ハ去り子ノ年一乱以後色々不仍候中在

中中上將軍家青山家書を以駿河へ送り

中念別信濃より送り中より上り中よりけり仕

中より仕

二月廿五日大久保石見より死去二十九下痢候

色々々養生の由り中を後お果中へ送り

死散を令棺へ入駿列より甲列へ送り一國々

僧を集め葬礼結攝へ仕中より送り中より成

候仕り後中候大市下候より仕

二月十七日松平筑前守駿府へ下出仕り中より同に

石集彦坂九玄傍に於て舟籠へ入中穿鑿せしむる
石見押領し金銀數多お改め所指上中い子代
あり内正源に中より分十人斗り先跡い中成敗石
見家内國不仕い如く何くうたふ仕り代倉中
毒い酒數石地並又武田ひ一のまのり
數多用意武田系家と寫して己う氏を武田
よりとり並中いけ事ゆせんさく成敗れ
甲列府中長遠寺より一向坊を所持し
武田老相と金銀を送る所をいあけ石長
遠寺い信玄より二男重堂より七月ありそ子

長遠寺い子より寺を清められ武田の

ましく所持する也け信石見書後い最科

俣豆の大湯い流る

石見いよりい並日中ありて地方万事いよりい人住方
有いにさう太公保お列同各い俣豆い中用持うた
免後いけ是信い多い列い此い快い一いよりいあり

一武藏相模並國國並い信分久永源を清め味金を事

加茂市六俣丹毒い物石見け時ありの大木並相改境

なり

一信列松本城主石川玄蕃近年大久保石見書

悉切りて知り隱田數多ありい分豊後い俣豆

碓流毛利俣勢書い中煩松本い城い小並系い領

一六月廿一日中家人松平清六より中者珍木平書

ふとと同道所川へ控山に出増上寺へ参るなり
一 乃出家流是をとかめ喧嘩成門をうてお合
大勢る切合中より清六方小勢にて二人とも
相果中

一 七月廿一日松平忠政事より大番改修傳付大寺下
町名を改め

一 有馬左衛門依に万石評領又最科に伏見寺小例
ありといふも若年より奉公中と云ふ父子

不和よりいふ名別の中なる也けふ次男也

一 八月廿五日浅野紀保も廿八歳なる死去居座に
介にお頼為養生紀別より終にお果中葛城

一 ともふき左衛門右衛門ともかふき左衛門ひま
れふけり座して終なり也け

一 九月十七日大寺町極強府中より同方七日江戸へ
着

一 九月十九日江戸西へ九る天台海義中徳圃

一 九月廿七日浪津の城より大久保迄右出の死去法に

道新迎年大病今迄不思儀に余今日大寺町
野出所誠言

一 廿九日大寺町柳還市西九

一 十月朔日諸大名大寺町へ中札有るけ日大寺町
里見備後守中改易安房中カ伯父也十二日氣衰

源七久良忠左衛門少助南是ハ先年中村一角
死云々時为上使事遣江渚及奥々何之仕旨
江戸へ云上幸大久保石見石列々金山へ下向
し時方々石見之相渡有公方横作付是
老中も状来る大久保石見渡り付事曲事
成りけ移及云庫助同十二日就け候改易を
云井大炊頭之新主様々御同ありけれ白物
縄々月々々けよりありあけ及々々々
不中

一 同月廿七日云庫日比慈志仕小野寺と云者中

送りりりハ侍り者御同之趣令いさして云事と中
送りりりハ侍り者御同之趣令いさして云事と中

一 旨全阿弥子息六右衛門も改易中村一角家老在
宰後事右出川毛後中村仔豆也三人迎年

駿府に相渡有在云是も改易被召預仕之決然
兄弟駿府に在在云是示大市下候も改易け
決然ハ佐長云秀吉云々中時より脅迫々々名人也

鶴取兵庫ハ形勢々々ハ移及長物云々同朋也或は
場致有る男之初ハ吾六々ハ後々云庫助と云

一 同八日同佐濃也々々坂渡と云事討突あり

同同員成中改易是ハ坂渡者人を討佐濃云々

又け入中山伝濃依為縁者抱至色く流すい
うする坂崎ふ及是北志くハ扶持を致し
りて追拂くくお海山如伝濃依者他下り
一至今限と悉く一々扶助下々流取らる伝列
ハ俘獲る十万石石取上宰筆を身奥列岩城に
配流

一 九列く高橋右近七万石改易之花取近形に於て
子ノ年市改易を後在江戸ニ本年以來奥列赤館
二万石納領 高橋右近一味あり

一 同月十六日川毛城後被召預内後若狭も同月五日

石川肥後同月五日改易

一 同月日大市町棟戸田(中野野木二日河城)中野
岩舟浦和大宮中野同海日忍(中野十一月
亦九日江戸)中野友堂和泉寺俘獲分石取河
城(系上仕大市町町面)成安田伝濃依南宛
先んて致代官(中野)中野

一 十一月九日佐野修理中目見地足安田金中勘(親
云誤音中達也)

一 堺々奉り承津清右忠ハ折列芥川ハ百姓々
云方ハハ百姓々成敗云事ハ成清右忠ハ貞

阿波國ノ配流 國亦日依く孫助國内記被るは是等畠田一味也

一十二月三日大府不棟駿府へ申渡して成申にて申
出小叔中務野國六日相列 中系ニ系より朱備守の細井新三郎頼光の申 中系と申出十二日小田系
近申出て申渡して荷お何者つけ出し申しけ
申し系も申目安と上る者あり馬場八右衛門
中者也八十斗見ゆり老翁也是ハ甲列定處
左吏修右家老に人々申也穴山ノ後ちまへ人極
付致申事を申余々家老と云事仕負りて小田系
申預成申在る身お列へ何と云恨も有
事々又も相列へ中務發元と云まはし書付り

座頭ニ扶持ヲ與フナ
官ニ就ケルニ至リ

小田系よりてあやし死事不思成成事有
申書付上申し申け何と云思召申し成も申
申成成に申する申成事て成申する荷おつけ
申すそ上江戸へ申付書事あり同十二日
晚江戸へ大井大炊頭申使中系系一人申前
系申何やん申し余人名安
未タ申九ういふ一應の
系も申末三月上総系全
一十二日大府不棟小叔へ申系成近申係
申達將軍家付申し出府申係密し申お致有
一十日支府不棟江戸へ還府

色よく申野を控へ
申る申ぬし申被露

一 成瀬集へ駿府へもあき若君ゆへに付る
何々々用ふ事々々諸人中の又わ見と極倉
内膳^とを侍勢^と元之河元毎年於駿府裁
年仕正月に日お日々比江戸へより中い来妻ハ
云用て仕中内膳^とを侍付

一 同十九日柳主上新内裏へ中後移石垣築地此
類出来前代未同也去慶長十六年中位^と
後一院主上中父子^と中不和人々出入^モ中^モ
所^{龍山女}一院^とを家康より後云中中りる不^と院中^とに
一院^とを中^とに於^と中^とに殿是^とは中^と位^との時中^と張

て書お以下依不張^と院^とに中^と願^と二子石中
不自中甚^と内裏^とに中^と願^と一万石富お人一人^と
中^と清及中^と表子<sup>是リ伝尋親
王ト中ハ改迎清</sup>姫宮^とを^と院^とに中^と
同十二王上中^と年^と才^と一<sup>今上ハ中^と背ハ
松宮好仁親王也</sup>
一 同亦日大所^と不^と採^と裁^と谷^とへ中^と野^とに中^と出^とを^とし^と
河裁^と中^と裁^と

一 亦六日將軍家より大久保相模より中^と侍上^と方
城内西園寺利支丹^と宗門中^と法^と交^とに中^と成^とり^と
相列^と中^と上^と委^と細^とお改^と穿^と敷^とを^と仕^と中^とを^と侍^と
一 同亦八日大所^と不^と採^と中^と野^と場^とより江戸へ中^と帰

今日第方よりてしる西九新城（中）に成りて
年々成りし中へ成りてけし

一 亦九日織田有樂兼書中札新庄に仕付けお預葉
我中書隅清佐濃書松平古依書堀尾山城書
松平下総書石川左次郎中多兵衛書松平和泉書
豊後書松平直政書越前書越前書仕左大久保
石見書遠州書改付テ令根後諸國より

凡五千貫目余也その令根後諸國より
其教何も駿府へ上納ノ令ノ道具茶碗天目同
臺挽杓爰予藏香合茶谷風炉水桶燭臺

手水盥

同柄指手巾数香盒鏡臺板

箱同柄

湯桶

燭臺五子箱二線茶代末

聞也石見書慶長六年今午述十二年

依渡石見諸方令山へ一年一交宛上下海

次中石見より女七八十人其次令二百五十人

石見泊り宿り我代友而中信あり大屋爰

作双へ傳馬人其も不知教り信天人の樂も

うきうきと申し毎日女うぶき女能又いおしを

見おまへ也日本一のおしものあれことも又

出羽人より傳し其様子より申し上り也

